

合気道探求

第39号

道主対談

「足元をしっかりと見つめて」

茨城県知事 橋本昌

私のふるさと案内：笠間・水戸

技演講座

正面打ち小手返し・第三教

日本武道の中の合気道 ⑯

辻月丹資茂（無外流） 加来耕三

合気道家私見①：無敵の概念 内田 樹

新連載：英語で合気道① 斎藤兆史

我が合気道人生に悔いはなし 今が一番

北海道合気道連盟前会長
合気道旭川道場長

兼平民洋



防衛庁合気道連合会を経て、現在、旭川道場で指導に当る

一、はじめに

今、現在、私は日々の合気道の稽古が楽しくて喜びを感じています。私も、あと三年で後期高齢者です。肉体的には、かなりガタがきていますが、六七歳になって、やっと稽古相手との一体感をいささか感じられるようになりました。最近は特に座技が楽しく約一時間ぐらいは平気です。

また、他県の合気道連盟の師範先生方とも親しく交流させていただいております。

中でも、当連盟と隣接しています東北合気道連盟の皆様とは、「合気は交流なり」の精神を発揮して、今後とも、より一層交流を深めて参りたいと願っております。

二、合気道を知るきっかけ

昭和三六年頃、私が大学一年生の時、「王者の座」という本を読んだところ、合気道開祖植芝盛平翁のことが書かれていました。我国に合気道という素晴らしい武道があることを知りました。

三、朝霞支部（防衛庁合気道連合会）の思い出

(一)、私の合気道人生の始まり

その後、私は自衛隊に入隊し、昭和四三年ころ、朝霞駐屯地に転動した際、同駐屯地の合気支部に入部しました。

当時、指導して下さった先生は、藤田二佐（中佐）でした。先生は温厚な人物で指導は丁寧でした。



防衛庁合気道連合会演武大会で演武を披露する筆者（市ヶ谷駐屯地）



本部道場の鏡開き式 防衛庁有志とともに道主をお囲みして
前列右から現道主（当時本部道場長）、吉祥丸二代道主（当時
道主）、渡辺弘師範（防衛庁合気道連合会）、筆者

呼吸・タイミングを計って自信を持たせながら、
体捌きを指導して下さいました。
現在、太刀取り、杖取りが自然に出来るのは、
そのお陰だと思います。

（二）、初めて見た開祖大先生の演武

昭和四三年十二月十四日、（新宿区体育館にお
いて）第八回防衛庁合気道連合演武大会に参加し
た際、開祖大先生の演武を見ることが出来ました。
大先生は入場の際、白装束でお弟子さん二人に両
脇を抱えられて入って来ました。

命尽きて悔いはない」旨を話され、次いで、「宗
教を理解できなければ、真に合気道を理解できな
い」と言われました。その時、私は宗教と合気道
の関係は全く分かりませんでした。
今、思いますと、宗教とは、惟神の道であり禊
（身を削ぐ）のことと思います。

実技に入って、大先生は立ったままで正座して
いるお弟子さんに大腿部を押させましたが、力不
足と思ったのかもしれないと催促され、更にお弟
子さんが力を入れた瞬間、後方に飛ばされました。
当時、「呼吸」のことを知らなかったので不
議なことと思えました。

四、合気道本部道場における

稽古の思い出

（一）、本部道場に近い市ヶ谷駐屯地に勤務
合気道の稽古が進むにつれて合気道本部道場
において稽古をしたい気持ちが強くなって来まし
た。そのチャンスが来て職種変更で市ヶ谷駐屯地
に転勤できました。

上司に、課業後、当直勤務等のない日は毎日合
気道稽古のため道場に通わせてもらいたい旨、申
し出たところ、逆に「よろしく頼む」と励まされ
ました。当時私は独身で営内生活を送ってしまし
たので、午後五時半の稽古に間に合うように外出

（二）、有川善範先生の思い出

有川先生の四方投げは、豪快でダイナミックで
した。稽古中に先生が私のところに寄って来て、
「来い」と手を出されましたが、私は「いやだ」と
断わったら、「どうしてだ？」と言いますので、
「先生の技はきつくないから」と答えますと、笑って、
「初心者にはきつくしないよ」と言って他の人を
指導していました。その日、稽古が終わって、私
一人で前方回転の受け身を練習していると、有川
先生が、「はすに飛べ！！」と何度も言われました。
私はその意味が分からないと気付くや自から斜め
前に手を着いて、受け身を展示して下さいました。
はすとは斜めのことでした。

有川先生は、気持ちの優しい先生でした。

五、小平支部の思い出

（一）、魅力的な黒岩師範先生の腰投げ

昭和四五年頃、私は、小平駐屯地にある業務学
校に入校した際、昼休み時間中に、小平支部で、
稽古をさせていただきました。

週に一回、黒岩先生に指導をいただきました。
特に黒岩先生の腰投げは素晴らしい、相手を腰に
乗せないで、呼吸投げに近い技で、これが合気道
の極意の腰投げかと感じました。

（二）、合気道本部道場における初段審査

牛久支部長の熱心な指導により、初段審査稽古
を充分に行なって下さいました。



瑞宝単光章叙勲の折に、旭川道場の会員とともに（平成18年）

自衛隊在籍中、退職一〇年前に故郷旭川に帰って、退職後の合気道活動の基盤を作りたいと思っていました。
希望通りに転勤が叶いました。平成五年に道場を開設しました。駐屯地に道場がないので、旭川市の総合体育館の道場を使用した方が市民との交流ができ、退職後の活動がスムーズに続けられると思いつくようにしました。

（二）、次第に稽古人が集まる

開設当初は甥と二人で稽古を始め、しばらくの間は、二人での稽古が続きました。
その後、自衛隊の隊員及び市民の方が集まり、中にはかつて合気道を習っていた方も参加されるようになって来ました。

平成五年に正式に北海道合気道連盟・同支部に加入し、防衛庁合気道連合会旭川支部との二本立て活動しました。

平成一三年に、私は定年退職（五九歳）しました。その後、食するに困らない状況でしたので、自分の健康管理も兼ねて合気道の稽古指導一途のボランティア活動を続けております。

そのことが評価されたのか、平成一八年に瑞宝単光賞を賜りました。

現在約一六名で楽しく週二回稽古しています。

十、おわりに

日々の稽古の中に極意あり

この気持ちをお忘れずに、これからも合気道人生を歩んで参りたいと思っております。

今まで、交流していただきました師範先生方、並びに、一緒に稽古して下さった道友の皆様、これからも、よろしくご指導をお願い致します。

最後になりましたが、合気道道主植芝守央先生と合気道の道友の皆様のご健勝とご繁栄をご祈念申し上げます。

ありがとうございました。



合気道旭川道場、留萌合気会、士別合気会が参加した道北地区合気道演武大会（平成16年）
前列右から2人目・筆者